ViskaSAT

Tamego

第1章 アルゴリズム

1.1 基本設計

SAT ソルバのアルゴリズム部分だけを取り出してライブラリとして使えるようにする。

Solver 様々なアルゴリズムのソルバの共通のインターフェース。このトレイトを持つものはロジックだけに集中し、Godotについては何も触らない。

Solver Runner Solver と Godot の 橋渡 し 的 役割 を する。
Solver を 別スレッドで走らせ、ソルバの進捗を 得たりソルバを 制御したりと双方向のやりとりを可能にする。

可読性のためにソースを分割して記述する。

```
//| file: rust/viska-sat/src/lib.rs
mod lit;
mod clause;
mod cnf;
mod assignment;
mod solver;
```

1.2 基本的な型

1.2.1 リテラル

リテラルとは原子論理式それ自体もしくはその否定のどちらかである。とくに命題論理において原子論理式は命題変数だから、リテラルとは命題変数それ自体かその否定のいずれかである。

var が命題変数を表し、 negated が否定されているかどうかを表す。

```
//| file: rust/viska-sat/src/lit.rs
pub struct Lit {
   pub var_id: usize,
   pub negated: bool
}
```

1.2.2 節

リテラルを OR で繋いだ論理式を**節**という。 Lit の配列として表現する。 CDCL ソルバのために必要ならメタ情報を付けることを可能にした。

```
//| file: rust/viska-sat/src/clause.rs
use crate::lit::Lit;
pub struct Clause<Meta=()> {
    pub lits: Vec<Lit>,
    pub meta: Meta,
}
```

1.2.3 CNF (連言標準形)

節をANDで繋いだ構造をしている論理式をCNFという。 Clause の配列として表現する。 num_vars は変数の個数(最大のID+1)を表す。

```
//| file: rust/viska-sat/src/cnf.rs
use crate::clause::Clause;
pub struct Cnf {
    pub clauses: Vec<Clause>,
    pub num_vars: usize
}
```

1.2.4 割り当て

各変数に真偽値を対応付ける構造を**割り当て**という。真・偽・未割り当ての3つの値を取り得るので、Option<bool>型を取ることで対応する。それの配列として割り当てを表現する。

```
//| file: rust/viska-sat/src/assignment.rs
pub struct Assignment {
    pub values: Vec<Option<bool>>
}
```

1.3 ソルバのトレイト

様々なアルゴリズムに共通するインターフェースを与えるために Solver トレイトを定める。ソルバ側の主な関数は以下の通り:

Solver::initialize() 問題(Cnf)を引数に取って SAT ソルバ を初期化する。

Solver::solve() 問題を解き、充足可能(SatResult::Sat)か 充足不能(SatResult::Unsat)かをを返す。

Solver::model() 充足可能のときの割り当ての1つを返す。充足 不能なら何も返さない。型は Option<Assignment> 。

また、SolverRunner との連携に関わる関数は以下の通り:

Solver::emit_event() イベントを発生させる。 SolverRunner にイベントを通知し、そのタイミングで一時停止する必要があるなら通知があるまで停止する。

```
//| id: sol_solver-trait
```

ここで、SolverRunner との通信のために SolverCommunicator トレイトを定める。 これは以下の関数を持つ:

SolverCommunicator::send_event() SolverRunner にソルバのイベントを伝える。

SolverCommunicator::recv_latest_control() SolverRunner か らの**最新の制御のみ**を受けとる。スレッドをブロックする。

SolverCommunicator::try_recv_latest_control()

SolverRunner からの**最新の制御のみ**を受けとる。スレッドをブロックしない。

```
//| file: rust/viska-sat/src/solver.rs
<<sol_solver-trait>>
```

第2章

Godot

2.1 エントリーポイント

godot-rust API の主要部分を読み込む。

```
//| id: grl_godot-rust-api
use godot::prelude::*;
```

ファイル分割して記述したモジュールを読み込む。

```
//| id: grl_modules
mod tests;
```

空の構造体 ViskaSATExtension を作って、GDExtension用のエントリーポイントにする。Godot とやりとりをする部分だから unsafe になっている。

```
//| id: grl_gdextension-entry-point
struct ViskaSATExtension;

#[gdextension]
unsafe impl ExtensionLibrary for ViskaSATExtension {}
```

<u>8</u> 第 2 章 Godot

```
//| file: rust/godot-rust/src/lib.rs
<<grl_godot-rust-api>>
<<grl_modules>>
```

第3章

テスト

3.1 テスト用モジュール

様々な内容の動作確認のために書いたコードを雑多にまとめておく。

```
//| file: rust/godot-rust/src/tests.rs
pub mod thread_channel_communication;
```

3.2 スレッド間のチャネルの通信

Solver と SolverRunner 間の通信の中核をなすチャネルについてテストしてみる。

スレッドとチャネルのモジュールを読み込む。

```
//| id: tcc_modules
use std::thread;
use std::sync::mpsc;
use std::time::Duration;
```

3.2.1 init

フィールドの初期化をする。

```
//| id: tcc_init
fn init(base: Base<Control>) -> Self {
    Self {
        num_rx: None,
        ctrl_tx: None,
        is_pause: true,
        base
    }
}
```

3.2.2 ready

チャネルを立ててフィールドに代入したり、その他変数を用意する。

```
//| id: tcc_init_vars
let (num_tx, num_rx) = mpsc::channel::<u64>();
let (ctrl_tx, ctrl_rx) = mpsc::channel::<bool>();
self.num_rx = Some(num_rx);
self.ctrl_tx = Some(ctrl_tx);
let mut is_pause = self.is_pause;
```

そして、1秒ごとに数字をカウントアップするスレッドを立てる。

```
//| id: tcc_thread
thread::spawn(move || {
    for val in 0..=100 {
        <<tcc_pause-handle>>
        num_tx.send(val).unwrap();
        thread::sleep(Duration::from_secs(1));
```

```
}
});
```

ただし、一時停止のメッセージを受け取ったら再開のメッセージを 受け取るまで停止する。

```
//| id: tcc_pause-handle
while let Ok(received) = ctrl_rx.try_recv() {
    is_pause = received;
}
while is_pause {
    let mut pause_flag = ctrl_rx.recv().unwrap();
    while let Ok(received) = ctrl_rx.try_recv() {
        pause_flag = received;
    }
    is_pause = pause_flag;
}
```

3.2.3 process

そもそもチャネルが作られているか確認する。

```
//| id: tcc_check-channel
let (num_rx, ctrl_tx) = match (&self.num_rx, &self.ctrl_tx) {
    (Some(rx), Some(tx)) => (rx, tx),
    _ => return,
};
```

もしデータがあるなら受け取る。

```
//| id: tcc_receive
if let Ok(received) = num_rx.try_recv() {
    godot_print!("{}", received);
}
```

決定ボタンが押されたらカウントアップの一時停止・再開をする。

```
//| id: tcc_pause-stop
let input = Input::singleton();
if input.is_action_just_pressed("ui_accept") {
    self.is_pause = !self.is_pause;
    godot_print!("is_pause: {}", self.is_pause);
    ctrl_tx.send(self.is_pause).unwrap();
}
```

```
//| file: rust/godot-rust/src/tests/
thread_channel_communication.rs
use godot::prelude::*;
use godot::classes::{Control, IControl};
use std::process;
<<tcc_modules>>
#[derive(GodotClass)]
#[class(base=Control)]
```

```
struct ThreadChannelCommunicatoin {
    num_rx: Option<mpsc::Receiver<u64>>,
    ctrl_tx: Option<mpsc::Sender<bool>>,
    is_pause: bool,
    base: Base<Control>
}

#[godot_api]
impl IControl for ThreadChannelCommunicatoin {
    <<tcc_init>>
    <<tcc_ready>>
    <<tcc_process>>
}
```